



できることは身近に、ボランティアを始めませんか

ボランティアをしてみたいけど、とりあえず何をすればいいのかわからない。
そんな人も多いはず。
でも、思い切って始めたら、きっと楽しいはず。
まずは、チャレンジあるのみ。

チャンスがあれば、誰にもできる
東京の最新スポット『シオサイト』(港区・汐留)に集まつた約30名の若者。何をするのかと思ひきや、「ゴミ拾い」とのこと。
これはアートディレクターの水谷孝次さんが行つてゐる「ゴミ」ケーション・プロジェクト「Merry Project(メリープロジェクト)」の一環として、「ゴミ拾いボランティア」呼びかけたもの。港区役所などと協働して、新橋駅周辺のゴミ拾いを行つた。「何かしたいけど、何をしていいかわからない。そんな若い人たちが、こうしたチャンスさえあれば喜んでボランティアに参加してくれる。誰にだってできることなんですね」と水谷さん。

興味から行動へ移すには

「ボランティアをしてみたい」という問い合わせは、月に500～600件はある

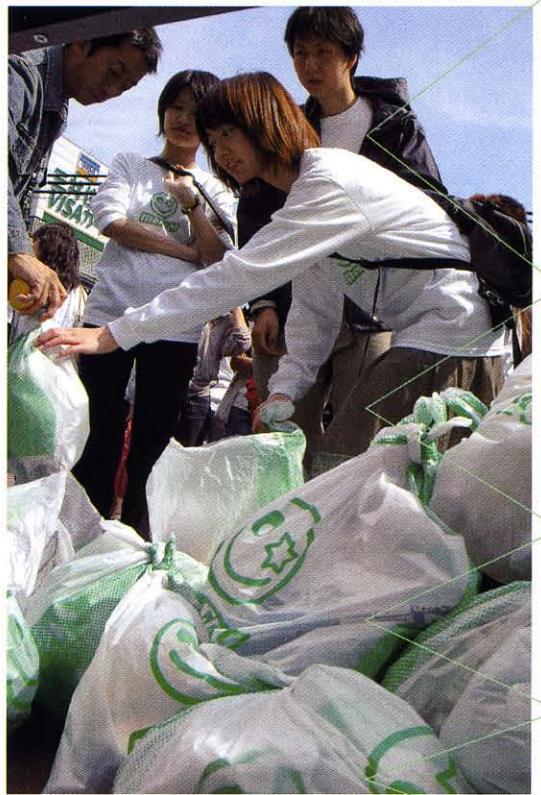
ますよ」と話すのは、東京ボランティア・市民活動センターの佐藤新哉さん。問い合わせの多くは、興味はあるけど何をしていいかわからないというもの。そのために、せっかく関心がわいたのに躊躇してしまう人も多いそうだ。
「テレビで災害救援活動を見たい、今までいる町をきれいにしたいなど、何でもいい。まずは興味を持つきっかけを思い出してください。ボランティアは、自ら考え行動を起こすことに意義があるんですね」と佐藤さん。

あとは最寄りのボランティアセンターに相談してみたり、イベントに参加したりして自分に合つか見極めればいい。

ボランティアを続けるには

せっかく始めたのなら、長く続けたいところ。なにか秘訣はあるのだろうか。

佐藤さんは話す。「楽しめるものを探すことが大切です。昔前はボランティアといえば福祉のイメージが強かつた。もちろん福祉も大切ですが、他に文化活動、環境保護、防災活動、国際協力、スポーツ、教育など、さまざまなジャンルがあります。さらにそのなかでも、専門的な技能をいかすものもあれば、力仕事を手伝つたり、地道な資料整理が必要なものもあるでしょう。そうした多様性もボランティアの魅力です。どんな活動にも共通するのは、自分なりの関わり方を探すといふことではないでしょうか」



2時間ほどのゴミ拾いにもかかわらず、相当量のゴミが集まつた。



10月4日に港区の新橋駅周辺で行われたゴミ拾いボランティア。空き缶、たばこの吸い殻など、分別しながら拾っていく。